

(様式1)

平成25年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

(整理番号) 010	提案機関名 横浜市
<b>要望問題名</b> 県内森林管理等で発生する伐材を利用し、肉牛の敷料として使用する安価で安定したおが粉を生産するシステムの構築について	
<b>要望問題の内容</b> 【背景、内容、対象地域及び規模(面積、数量等)】 【背景】 3年前ごろから、市内肉牛生産農家から敷料に使用しているおが粉の入手ができないという相談をうけるようになり、産業廃棄物交換システムを利用して建築廃材の木くずを探したり、剪定枝をチップ化している業者等から高価なものを買って対応するような案内をしているが、建築廃材は釘が入っていたり薬が使われているなど問題があり、剪定枝のチップ化を行っている団体や業者でも敷料として適した材質のものがなかなか見つからず、あっても高価でとてもやっていけないなどの相談をうける。年々、チップ不足が深刻化しており、敷料の交換の間隔が長引き、肥育への影響もでてきているとの意見もきく。 【要望】 県の森林の維持管理で発生する伐材等を材料に県内の肉牛生産に不可欠なおが粉を安価で安定的に製造するシステムの構築を研究願いたい。	
解決希望年限	1年以内      2～3年以内      4～5年以内      5～10年以内
対応を希望する研究機関名	農業技術センター      畜産技術所      水産技術センター 自然環境保全センター
備 考	

ここから下の欄は、回答者が記入してください。

回答機関名	自然環境保全センター	担当部所	研究連携課
対応区分	実施    実施中    継続検討    実施済    調査指導対応    現地対応    実施不可		
試験研究課題名 ( 、 、 の場合)			
<b>対応の内容等</b> 県内の製材工場でのおが粉生産の実態について県庁森林再生課に問い合わせたところ、おが粉製造機を持っているのは、県森林組合連合会の林業センター(秦野市菖蒲)と民間製材業者の数社しか把握していないとのこと。 このうち相模原市の業者は生産量も多く、製材副産物としてスギ・ヒノキのおが粉を常時ストックしており、近隣の牧場に供給しているとのことですが、供給力は十分余裕があるようです。 県内の製材工場が極めて少ない現状から、供給システムの研究にはなじまないと考えております。当面は県森林再生課の県産木材担当や普及担当を通じて事業者を紹介することで対応します。			
解決予定年限	1年以内      2～3年以内      4～5年以内      5～10年以内		
備 考			